



P 2-3 令和2年度 決算報告 P 6 町との協議事項

P 4 令和2年度 決算審査報告 P 6-11 一般質問7名 11件

P 5 令和3年度 補正予算ほか P 1 2

「この人に聞く」
環境省 えりも自然保護官
事務所 アクティブレンジャー
熊谷 文絵さんにインタビュー

10月22日(金)えりも中学校で"躍動祭"が行われました。

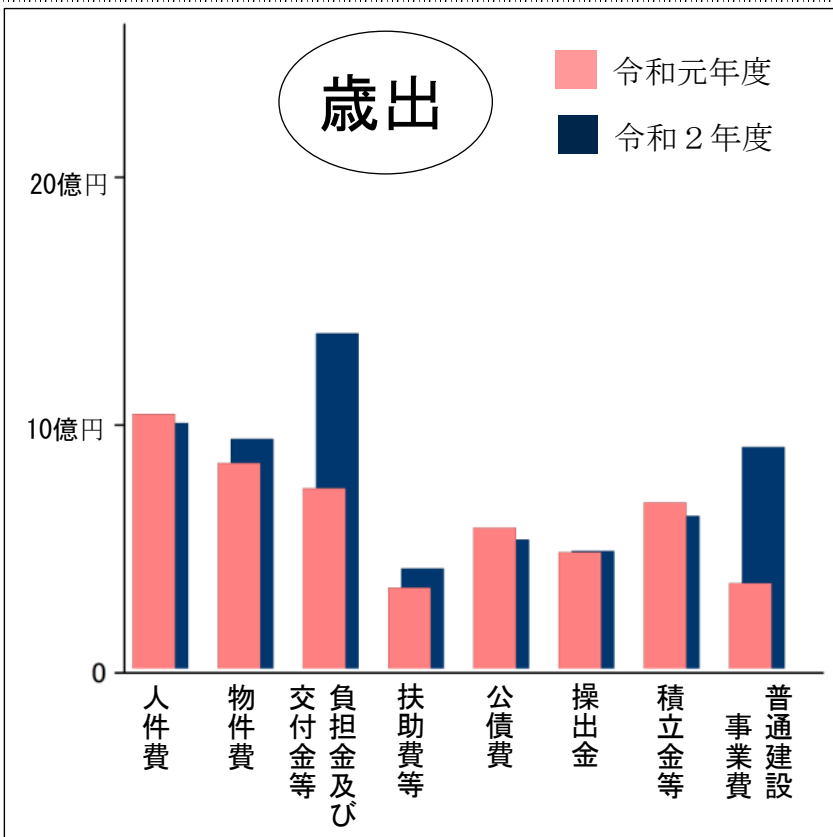
新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言も解除され、各家庭2名の入場制限があったものの、オープニングでは学年クラス毎に制作した「行灯」を発表。その後、演劇や合唱など日ごろ練習してきた成果を保護者の前で披露していました。(写真は3年生の合唱)

前年度と比べどのような変化があったのか検証してみました

一般会計歳出を前年度と比較してみると 約12億円増加

令和元年度 歳出 50億9137万円

令和2年度 歳出 63億 425万円



増加の理由は

左のグラフから負担金及び交付金等と普通建設事業費が大幅に増加しているのがわかります。(100万円未満四捨五入)

負担金及び交付金等 6億2500万円増加

- 新型コロナウイルス関連 特別定額給付金 4億5500万円
町民1人当り10万円給付
- 新型コロナウイルス関連 事業者への支援給付金等 7300万円
農・漁・商工業者への給付金等
- 汚水処理施設共同整備事業負担金 (MICS事業) 5900万円

総括

令和2年度の象徴的な出来事は、新型コロナウイルス関連で、町民や事業者に様々な形で交付金や補助金が支給されたことと町民からの要望が多かった小学校プールが建設されたことではないでしょうか。

物件費 9700万円増加

- タブレット購入費 2300万円
小学校・中学校に1人1台タブレットを整備
- ネットワーク構築委託料 6600万円
小・中学校、高等学校のインターネット環境の構築及び運用保守業務委託
- 新型コロナ対応備品購入 3200万円
- 優良肉用繁殖素牛購入 2500万円

普通建設事業費 5億4900万円増加

- えりも小学校プール建設事業 4億5600万円
- 公立学校情報通信ネットワーク 環境整備事業 (GIGAスクール) 6300万円
小学校・中学校・高等学校にインターネット高速通信環境を整備
- 高齢者センター改修工事 4000万円

令和2年度一般会計及び6特別会計の決算が認定されました

一般会計歳入を前年度と比較してみると 約13億円増加

令和元年度 **歳入 51億3179万円**

令和2年度 **歳入 64億6206万円**

増加の理由は

右のグラフから国庫支出金と町債が大幅に増加しているのがわかります。
(100万円未満四捨五入)

国庫支出金

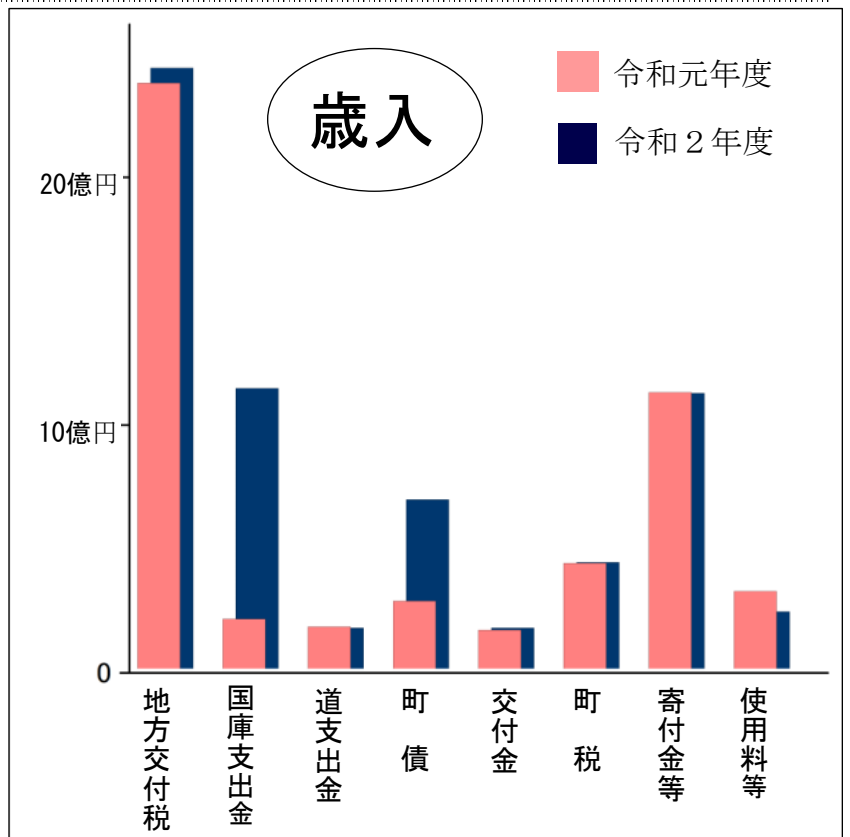
9億3400万円増加

新型コロナウイルス関連 特別定額給付金	4億5900万円
新型コロナウイルス関連 地方創生臨時交付金	3億1400万円
小学校プール補助金	1億900万円

町債

4億1000万円増加

小学校プール建設事業	3億2400万円
公営住宅建設事業	2600万円
高齢者センター改修工事	3500万円



町の貯金は(積立金残高)

28億5200万円

ここ2年は、「ふるさと納税寄付金」が約9億円と増加したことから令和2年度末積立金残高は前年度より約3億9400万円増の28億5200万円となりました。

町の借金は(地方債残高)

48億2900万円

ここ数年は減少傾向でしたが、「えりも小学校プール建設事業」に伴う町債の発行で令和2年度末残高は前年度より約1億9000万円増の48億2900万円となりました。



名称は「えりも小風の子プール」に決定

監査委員、決算審査結果を報告

えりも町監査委員 小関孝雄
えりも町監査委員 笹谷廣喜

決算審査意見書の中から一部抜粋し掲載

財政の推移及び収支の状況

- ・令和2年度決算額：前年に比べ、歳入25.9%、歳出23.8%の増。
- ・歳入増の主な要因：新型コロナウイルス感染症に対応した地方創生臨時交付金及び特別定額給付金。

157,803千円の剰余金が生じ、実質単年度収支で208,216千円の黒字。

収入未済額について

- ・令和2年度未収入未済額：132,355千円、前年度比較で6,406千円、4.6%の減。
- ・国保・簡水・診療所・下水道・介護・後期医療を含めた収入未済額：371,062千円。前年度より36,741千円、9.0%の減。

総括

・国の借金は、高齢化で膨らむ社会保障費の増加や新型コロナ対策の支出などにより過去最高を更新しており、地方交付税などの依存財源に頼らざるを得ない財政状況にある当町にとっては、今後の国の動向を見極めながら、財政運営を行っていく必要がある。

大変厳しい社会環境の中で、自主財源や依存財源ともに、収入の大幅な増加は難しいが、新規・既存事業を進めながらも、一方で効果的な行政運営の観点から既存事業の見直しも視野に検討し、取り組まれない。

令和2年度決算審査を終えて

決算特別委員会 委員長 渡部 泰

厳しい財政状況にある当町ですが、町税等の収納率も大きく上向いている。

地方交付税などの依存財源に頼るわがまちにとって、自主財源を確保することは大きな課題であり、今後も引き続き、収納率の改善に向けた取り組みを進めていただきたい。

この審査結果が後年度の予算編成や行政執行に生かされるよう期待するとともに、私たち議員も住みよいまちづくりを進めるため、なお一層の努力をする所存ですので、よろしくお願ひいたします。



決算特別委員会 質疑

9月16日、令和2年度の決算に対する質疑応答が行われました。多くの質疑がありました。内容を抜粋し掲載します。

森林環境譲与税について

質疑（高松）

森林環境譲与税は国から659万円交付されているが、いつからどのような形で徴収されるのか。

答弁（総務課長）

徴収は、森林環境税として令和6年度から個人町民税の均等割の仕組みを用いて国税として一人年間1000円を市町村が賦課徴収する。

小学校プールの開館期間は

質疑（石川）

小学校プールの開館期間はプール授業の期間に合わせて決まるのか。

答弁（教育長）

授業だけでなく、放課後等に児童生徒がプールを利用することも考慮して、6月の初めから10月まで、開館期間の延長を検討する。

保養施設ちやっぷについて

質疑（石川）

改修が完了し、再開してから約半年経過したが、入込数はどうか。

答弁（保健福祉課長）

新型コロナウイルスの影響で臨時休館があり令和元年度との比較になるが、令和3年の7月末で入館者数は3461名。令和元年度は4ヶ月間で合計6週間ほどの休館があり年間4886名の利用があった。1日当りを比較すると改修前より増加している。

答弁（町長）

改修された部屋を含めて子供、親子が楽しむ部分を考えていきたい。また、浴室内部の壁も少し明るくするなど検討していきたい。

水道料滞納について

質疑（橋本）

水道使用料の収入未済額が約3600万円あるが、抜本的な解決策はないか。

答弁（建設水道課技術長）

大口部分が固定されているのが一番大きな部分であり、今後は給水停止を含めて検討する。



えりも町議会第4回定例会

補正予算

◎令和3年度
一般会計(歳出)

・感染症予防対策工事

小学校 1900万円

中学校 750万円

・新型コロナウイルス感染症
予防対策として小中学校
の手洗い場等の蛇口を自
動水栓化等にする費用

・塵芥処理費負担金等

1000万円

・清掃センターが工事によ
り休止している期間中の
可燃ごみの焼却処理を浦
河町他へ依頼する負担金

条例制定

○えりも町再生可能エネ

ルギー発電設備等の設
置及び運用の基準に関
する条例

①策定理由

・ガイドラインの規定を
守らない事業者がおり

・トラブルになる事案が複
数発生している

・防災行政無線への影響が
確認されたため、影響を
与えないようにする。

②ガイドラインからの主な
変更点

①住宅等からの距離

・大型風力・風車の全
高の5倍以上離す
・小型風車・250m
以上離す

②防災行政無線設備から
の距離

・設備から250m以
上離す

③近隣住民への説明

・FIT申請前に説明
会を実施

④立ち入り調査等

・結果を町に報告
・必要な場合に立入調
査や指導・命令等を
することができる

⑤公表

・正当な理由なく命令
に従わないときは、
事業者の名称等、命
令内容を公表するこ
とができる

議会として「次年度予算」をまちに要望

今年度より議会活動の一環として、次年度へ向けて予算要望をすることとしました。各議員から様々な意見が出され、全議員で協議の結果、喫緊の課題として取り組むべきものと判断した以下の3件を町へ要望しました。

①漁業被害への支援を

このたび発生した赤潮が原因とみられる漁業被害により、漁業者や事業者など漁業に携わる数多くの関係者が多大な損失を被っている。一刻も早く被害状況を把握した上で、国・道と連携し、資源回復や漁業経営維持など、必要となる支援を行うこと。

②電気自動車の充電設備の設置を

当町は、日高東部3町と広尾町の中で電気自動車の充電設備が唯一設置されていない。これから映画製作や国立公園化で観光客を呼び込もうという中で、電気自動車を保有する観光客にとっては来町意欲を削ぐ一因ともなり得ることから、充電設備を設置すること。

③灯台公園パークトイレスマイルの改修又は改築を

本トイレの利用者から不快との声が多く聞かれている。国立公園化が実現すれば、町民だけではなく、多くの観光客も利用する施設であるため、早急に改修又は改築に着手すること。

町との協議事項

えりも町過疎地域持続的発展市町村計画(素案)について

・過疎計画とは

過疎法に基づき、過疎地域として公示された市町村が、地域の持続的な発展を図る。当町でも、道の方針に基づき策定。

今回より、人口に関する目標の設定や達成状況の評価について記載。

・概要(抜粋し記載)

○基本事項

- ・人口の推移と動向：2045年に3,667人まで減少見込み。
- ・地域の持続的発展の基本方針
 - ①効果的な産業を振興し、所得の増加と雇用の拡大を図る。
 - ②高齢化社会に対応した安心して暮らせるまちづくりを目指す。

・地域の持続発展のための基本目標

全体の人口：平成27年 4,906人

令和7年 4,310人(目標)

計画期間：令和3年4月～令和8年3月

・公共施設等総合管理計画との整合

人口減少を見据えた設備更新。町民ニーズへの適切な対応。民間活力の積極的な導入。

- 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成
- 産業の振興(水産基盤整備事業等)
- 地域における情報化
- 交通施設の整備、交通手段の確保(高校通り線改良舗装等)
- 生活環境の整備(地域防災強化事業等)
- 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉向上及び増進(人工透析患者移送事業等)
- 医療の確保(医師確保対策事業等)
- 教育の振興(放課後児童クラブ運営事業等)
- 集落の整備(国道通行止めによる孤立化対策等)
- 地域文化の振興等(郷土資料館等展示改修及び多言語解説整備事業等)
- その他地域の持続的発展に関し必要な事項(自治会活動への支援等)

一般質問

問 魚価下落で収入が減った漁業者に支援を

答 必要な給付を検討



上野陽司議員

問 上野議員

コロナ禍の緊急事態宣言による外出自粛や飲食店の時短営業が、魚価に影響を及ぼしている。

町民の多くが関わりのある昆布は、コロナ禍前と変わらない価格で推移しているが、鮮魚では真ツブで約20%、カレイ類、ホッキ貝で15~20%の下落である。

国から持続化給付金や月次支援金等の支援策もあるが、収入が前年同月を下回っているも、対象にならない漁業者がいると聞く。

このような漁業者に何らかの支援をしてはどうか。

答 産業振興課長

昨年来、外食産業などの不況により町内で漁獲される水産物、特に単価が比較的高い真ツブやウニなどの価格

が大きく下落している。国は前年同月比50%

以上の収入が減った事業者、持続化給付金や月次支援金の給付を行っている。

北海道は国の支援の対象から外れる前年同月比30%以上50%未満の収入が減った事業者特別支援金の給付を行っているが、30%未満の事業者に対する給付は現状はない。

国では11月以降に制限の緩和を検討しているが、その動向を見据えて漁協など関係機関と協議の上、必要な給付を検討していきたい。



高級とされる当町特産の真ツブもコロナ禍により価格が大きく下落している

問 理髪店や小売店にも補助を



中野公浩議員

答 感染予防資材の補助継続

問 中野議員

新型コロナウイルス感染症防止対策として、飲食店と旅館に空気清浄機、空調機器などの補助を行い、町内においては一定の経済効果が生まれたと思う。接客業の理髪店や小売店に対しても感染防止対策として空気清浄機、空調機器などの補助を行ってどうか。お客さんも安心していただけるのではないかと。

答 産業振興課長

国は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の主な起点と考えられている「飲食店の場面に對する更なる対策強化」や「人の流れを抑制する措置」などを講じているが、ワクチンの2回接種完了者が国民の50%を超える11月以降、各種制限の緩和を検討している。北海道は緊急事態宣言が発令中だが、昨年最初の宣言時に比べると緊張感や警戒感が薄れ、襟裳岬や一部の港には、町外から多くの観光客や釣り人が訪れている。町では、観光客などが多く利用し、感染リスクが高いと考えられる飲食店や宿泊施設に對し、空気清浄機や、空調機器などの導入補助などを行ってきたが、感染リスクが低いと思われる理髪店や小売店などに対する補助は、今後の検討課題と思う。現在行っているマスクや消毒液・パーテーションなど、感染予防資材の購入補助を継続実施していきたい。



各店舗には消毒液等の新型コロナウイルス対策が欠かさない

問 中野議員

歌別川は単に雨量が少ないこともあるが、針葉樹ばかりの森の影響により水量が減少しているのではと考える。現在町は、庶野方面を重点的に針葉樹を植林しているが歌別川上流付近に広葉樹を植樹してはどうか。森を育てることは海を育てることに繋がりを育てることに繋がりを地球温暖化を防ぐ効果

問 歌別川上流部に広葉樹を

問

答 定置部会と協力し植樹

答

もあると考えるが。

答 産業振興課長

歌別川の水量は、年により違うが、年々減少していると思う。降水量の減少が主な原因と思われるが、山林の保水力も関係している可能性がある。

一般的に針葉樹よりも広葉樹の方が、保水力が高いと言われていたが、当町で主に植樹しているトドマツは、広葉樹と同等の保水力を持つとの研究結果もあるため、一概に針葉樹の植樹により保水力が減っているとは言えない。

えりも漁協の定置部会青年部は、歌別川の水量が減少し、鮭の遡上に支障をきたしていると考え、令和元年度から旧道営肉牛牧場跡地に植樹を始めた。令和4年度からは青年部活動ではなく、定置部会として植樹を進

めていくとのこと、町は積極的に協力していく考えである。

また、旧道営肉牛牧場跡地の採草放牧地部分は、独立行政法人森林総合研究所と分収造林契約を締結し、主にトドマツの植樹をしている。

今後、定置部会の植樹と分収造林契約の植樹を進めるが、年月をかけ徐々に山林面積を広げ保水力を確保し、歌別川の水量増加に努めていく必要があると考える。



歌別川上流では保水力確保のため、各団体が植樹を行っている



竹内孝文議員

「風の子プール」 休館日の見直しを

答 お盆期間の 開館を検討する

問 竹内議員

「風の子プール」の利用期間は、6月1日から9月30日までであるが、休館日は毎週月曜日とお盆期間中の8月13日から16日となっている。児童生徒等にとってお盆期間は夏休み終盤であり、最も利用が多

いと思われる。約5億もかけ、わずか4か月しか開館していない施設で、お盆の期間に休館することに疑問がある。

①運営規則には8月13日から16日を休館にするとして明記されているがその理由は。

②「特に必要と認めるとき」は休館日を変更できるとあるが、どのようなときか。

また、8月13日から16日を休館する考えはないか。

③「風の子プール」以外の公共施設で、お盆期間中を規則で休館としている施設はあるか。

答 学校教育課長

①「えりもの灯台まつり」の時期と重なり、旧温水プールにおいても、利用者が他の日に比べ少ないことや、今年度はコロナ対策を含め、休館日として設定

した。

②学校授業の変更により、休館日に開館する場合や機器の故障等により休館する場合を想定している。

また、お盆期間の開館や開館時間の延長については、町民、学校から意見が寄せられていることもあり、変更を検討する。

③保育所のみ13日を休所として規定している。



お盆期間の開館が望まれる「風の子プール」

問 神田議員



神田 修議員

問 保育所や診療所に エアコンを

答 来年度以降に検討

今夏の道内の真夏日は27日連続となり1950年と並んで2位タイ記録となった。来年度以降も高温が続くことが予想される中、各保育所や診療所にエアコンを設置して、幼児の快適な保育と診療

所に入院している方や通院される方々の安全性、快適性を図ることが必要と考えるが。

答 町民生活課長

現在、エアコンは中央保育所が2台で庶野と岬には設置していない。

当町でも気温の高い日が続き、保育所での暑さ対策には細心の注意を払い、健康観察を含め、サーキュレーターや窓の開閉による空気の入れ替え、こまめな水分補給、着替えの常備、水遊びの時間増などの対策を行っている。

エアコン設置も暑さ対策の一つの方策と考え、健康で安全安心な環境で保育が受けられるよう検討する。

答 診療所事務長

診療所は現在、各診療室などに10台設置している。

また、新型コロナウイルス感染症への院内感染対策も含め、窓の開閉や、正面玄関や裏玄関を開放しての換気を行っている。

今夏は、道内で気温の高い日が続いたため、診療所でも例年以上の暑さから、扇風機や冷風機を追加購入しながら暑さ対策を行った。

来年度以降も暑さが続くことが予想され、エアコンの設置が必要な場所を調査・選定し、計画的に設置が出来るよう検討する。



保育所にもエアコンが必要ではないか



橋本維応議員

問 公共施設の耐震化は

答 構造上の改修とあわせて検討

問 橋本議員

近年、巨大地震が想定され、甚大な被害が予想される。当町でも「えりも町耐震改修促進計画」が策定されているが、

①福祉センターは改修工事で内部施設は良くなっているが築50年以上も経過し、耐震化もされていないため、構造上の改修が必要ではないか。

②町民体育館も耐震化されていないが、耐震化して災害時の使用も視野に入れては。

③コロナ禍で、避難所が密にならない対策も必要になり、避難者の分散が必要では。

答 社会教育課長 補佐

①令和2年に町独自の劣化状況調査を行い、福祉センターは部分補修や全面シール打替が必要と診断されたが、大きな構造上の改修は計画していない。

今後、耐震化が必要となれば、構造上の改修とあわせて検討する。
②町民体育館も劣化状況調査で、外壁、塗装等、大規模修繕が必要

要と診断された。来年度から調査検討をはじめ、令和6年度当初までに、耐震化の有無や災害時の使用などの動向も踏まえ検討する。

答 企画課長

③避難所のコロナ感染症対策は通常の災害発生よりも可能な限り多くの避難所を開設することが望ましく、避難者の分散が必要と考えている。

今後、避難所を円滑に運営できるよう、訓練等を検討したい。



町民体育館は大規模改修が必要である

問 橋本議員

問 脱対面、脱紙、脱ハンコで業務の効率化を

答 業務効率化を念頭に進める

国の指導のもと、省庁の業務効率化が図られているが、地方自治体でも業務効率化推進の波が押し寄せている。当町でも、役場を訪れなくても手続きができる、脱対面、脱紙、脱ハンコを検討してはどうか。

窓口業務の効率化だけではなく、職員が効率よく働くことができる環境を実現することが可能では。

答 総務課長

脱ハンコは、現在すべての課において、押印見直しの実態把握及びその検討を実施し、行政手続きにおける不要な押印の廃止も念頭に置き、必要に応じ順次規則等の一部改正を視野に入れ、整理を進めている。

脱対面、脱紙は、国が推進する行政手続きのオンライン化で、住民がマイナンバーカードを用いて申請を行う子育てや介護関係など27の手続きについて、令和4年度末までに実現を目指すものである。当町でもオンライン申請が可能となる業務の範囲は拡大していくものと想定しているが、申請の種類は多岐に渡

ることから、そのすべてをオンライン化することは非常に難しく、申請件数や費用対効果等、十分な精査が必要と考えている。



役場での申請関係はオンラインで行う日も遠くないかも



大坂庄吉議員

地域おこし協力隊に おかまわりの仲介業務を

問

問 大坂議員

地域おこし協力隊は、道内でも年々隊員数が増加し、各地域の活性化に取り組んでいる。①当町には1名の隊員がいるが、どの様な

答

漁協と協議、検討

活動をしているか。
②総務省は隊員の将来的な増加につなげるため、「地域おこし協力隊インターン」と名付け、2週間から3か月の期間限定で隊員を体験できる制度を創設した。この制度を活用してはどうか。
③当町漁業者の夏場の産業基盤といえど、昆布採取だが、最近では人手不足で困っていると聞く。仲介手続きの窓口として地域おこし協力隊の導入を検討すべきでは。

答 産業振興課長

①コンブポートクルーズの案内業務のほか、鹿角のアクセサリ作成など様々な活動をしている。
③おかまわり不足はどの程度のニーズがあるのか確認が必要である



隊員はコンブポートクルーズの案内業務も行う

答 企画課長

り、仲介には様々な問題点も考えられるため漁協と協議し検討する。

②隊員の25%が着任してから1年以内に辞めているという調査結果がある。
新たに隊員を採用する際には、ミスマッチとならないよう町の状況を事前に理解してもらうため、インターン制度を活用することも検討したい。

海外研修中止で 免許取得に助成を

問

問 大坂議員

えりも高校は、平成8年1月に韓国慶州市にある茂山中等高等学校と姉妹校の調印をしている。目的は、相互交流、国際理解教育の推進であり、生徒間の交流はもちろんのこと、PTAとしても相手側生徒、先生のホームステイなどを行った。

答

目的外使用は難しい

また、同年10月には町の助成による海外研修が始まり、参加した生徒からは多くの知識を深められたと評価されている。
①今回、海外研修が中止になり残念に思うが、3年生に配慮して自動車運転免許を取得する生徒に多少の助成をしてはどうか。
②この事業を保護者や生徒はどのように受け止めているのか。

答 学校教育課長

①海外研修事業は国際交流を目的とした地方債を充当していることから、それ以外の事業へ使うことは難しい。
②保護者も生徒もコロナ禍での中止は仕方ないと受け止めている。保護者からは「子ども



茂山中等高等学校との交流会の様子

もはとても楽しみにしている」、「生徒からは「異文化交流が素晴らしい人々との出会いが良かった」などの評価は「非常に良い」または「良い」との回答であった。今後は様々な視点から協議検討していきたい。



高松亮裕議員

問 旧東洋小の利活用は

答 令和4年6月 までに方向性を

答 社会教育課長

東洋地区からは、体育館の使用、集会所、部活動の合宿、災害時の避難場所等の要望があった。

各種団体や一般公募の町民からなる「意見を聞く会」からは、昆布漁業等の体験活動施設、ワーケーションの拠点、アーティストの招へい、投資と維持経費のバランスが重要な点から、より議論を深め絞り込む必要があると考へ、来年6月頃をめどに最終的な方向性をまとめ、広く町民に周知していきたい。

が必要など各課から多様な意見や課題が出された。

このような状況から将来の人口、人口構成、地域性、産業特性等を考慮しつつ経営的な視点からも、より議論を深め絞り込む必要があると考へ、来年6月頃をめどに最終的な方向性をまとめ、広く町民に周知していきたい。

役場庁舎内の検討会では、公募、賃貸、売却、老人福祉施設、国立公園化に向けた観光客対応施設、企業誘致、社会教育施設、継続には財政的な検討

問 高松議員
旧東洋小の利活用についてどのような意見が出されているか。
また、いつまでに方向性を決めるのか。



多様な利活用に対する意見が出ている旧東洋小

問 通学路の安全点検を 答 危険なブロック塀は 撤去・補修を依頼

答 学校教育課長

傾くなど明らかに倒壊の危険性があるブロック塀について所有者に撤去を依頼したか。

① 毎年、児童の安全確保のため「交通安全計画」を策定し、通学路の安全点検を実施している。

今年6月にも臨時点検を各学校に通知したが、新たな危険箇所や危険性のあるブロック塀の報告はなく、通学路における危険なブロック塀はないと認識している。

答 建設水道課長

② 個人が設置したブロック塀は、基本的に個人で管理すべきという考へのもと、ブロック

① 通学路における一般のブロック塀について調査し安全性を確認したか。
② 通学路に限らず、

傾くなど明らかに倒壊の危険性があるブロック塀について所有者に撤去を依頼したか。に関するチラシを全戸配布したり、点検チェックポイントをホームページ上に掲載するなど、ブロック塀の自主的な安全点検を呼びかけてきた。

行政が所有者宅を訪れ、直接、撤去・補修を依頼したことはないが、ブロック塀の倒壊は人命に関わることであり、今後、目視で容易に傾きが確認できる危険なブロック塀について、その所有者に対して撤去・補修のお願いをしていく。



公共施設のブロック塀は改修されたが、個人所有の危険なブロック塀は...

この人に聞く

環境省えりも自然保護官事務所

アクティブレンジャー

くまがい ふみえ

熊谷 文絵さん



Q 大学時代のエピソードは。

A 卒業論文でゼニガタアザラシについて研究しました。

アザラシの歯は削ると年輪の様に年層があるんです。

この層を数え年齢査定をし、体サイズを見てみた結果1980年代から2000年代までに雌雄の体格差が少なくなってきたことが分かっていきます。

Q えりも町での活動は。

A えりも町周辺海域には日本に定住する唯一のアザラシであるゼニガタアザラシが生息しており、生息数調査や漁業被害対策に取り組んでいます。

議会の動き

9月 9日	議会運営委員会
9月16 ~17日	全員協議会・第4回定例会 決算特別委員会 広報広聴常任委員会
10月11日	全員協議会 広報広聴常任委員会
10月19日	全員協議会 二常任委員会 合同所管事務調査
10月21日	広報広聴常任委員会

新型コロナウイルス感染症対策によって中止になった主な行事

- ・8月14日 灯台まつり（海上安全祈願祭）
- ・8月23日 議会広報研修会（札幌）
- ・10月3日 海と山の幸フェスティバル



ドローンで空撮した襟裳岬の雄大な自然

深刻な鮭のアザラシ被害を確認する様子



熊谷文絵さんは、神奈川県出身。県内の高校を卒業後、東京農業大学に入学。世田谷キャンパスを経てオホーツクキャンパスへ進学し水圏生物を専攻。卒業後、生きものの好きが高じて水族館飼育員を経験した後、えりも自然保護官事務所に着任し4年目。

（取材・橋本）

実際に定置網の漁に同行してみると、えりも特有の強風など過酷な条件下で実施する日も多く漁業者みなさんの大変さが身にしみて分かります。

最初こそ現場の状況を知らずみなさんのお話も難しく感じましたが、現状を知ろうと過ごすうちに良くなりました。昆布のおかわりも経験しました。仕事に対する姿勢が大事なのだと実感しています。

えりも町にはアザラシによる深刻な漁業被害があります。これを軽減させるにはどういった対策が有効か、

引き続き漁業者みなさんの声を聞きながら進めていきます。

Q 今後の展望は。

A アザラシの生息数調査にドローンを活用しています。天候に左右されやすい特性があります。えりも町にいるからこそ、良いタイミングを逃さず実施し、より詳細に把握できるように取り組みたいです。

編集後記

昨今、コロナ禍も収束の兆しが見えつつあり経済の回復が期待されるところです。

当町の主要産業の取昆布漁も無事終わりましたが、先日の赤潮で漁業への被害が心配されるところです。

今回の議会だよりは、決算委員会、町との協議事項をはじめ、紙面に書ききれない部分がありました。

過疎地域では人口減少、少子高齢化、労働力不足は喫緊課題ですが、テレワークなどのICT技術を用いてそれらの課題を解決していければと思うところであり、涼夏少雪を活かし今後の交流人口などの増加に注力できればと思います。

（橋本）

広報広聴常任委員会委員

委員長 橋本 維広
副委員長 高松 亮裕
委員 竹内 孝文
神田 修
上野 陽司